

座標: 北緯35度28分30.4秒 東経134度15分58.0秒

ウィキペディア

因幡国庁跡

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

因幡国庁跡（いなばこくちょうあと）は、鳥取県鳥取市国府町中郷にある**律令制**下の**地方行政機関**の中心施設跡。国の**史跡**に指定されている。

因幡国は、**鳥取県**のほぼ東半分にあた**る**。本**国庁跡**は、**鳥取市**の東方約**10**キロメートルの所にあり、近くに**因幡万葉歴史館**がある。



因幡国庁跡 正殿（手前）・後殿（右奥）

目次

発掘結果

出土品

国司

文化財

国の史跡

脚注

参考文献

関連項目

外部リンク

発掘結果

1977年（昭和**52**年）の発掘調査では、国庁の中心部にごく近いと推定される建物群の一画が発見されて、翌**1978年**（昭和**53**年）には史跡に指定されている。発掘調査で**10**軒余の掘立柱建物、**2**条の柵、**2**基の井戸、数本の道路と溝などが検出された。これらの遺構は、石積み遺構や溝に囲まれており、中心殿舎は、桁行**5**間×梁間**4**間で南北の両面に廂を持つ掘立柱建物と後方約**7**、**8**メートルに軸線を同じくして桁行**5**間×梁行**2**間の切妻型の掘立柱建物である。中心殿舎の南側約**750**メートルの所に桁行**7**間×梁間**3**間以上の東西棟の掘建柱建物（中世に下る）が国庁の南限を示していると考えられている。

これら中心遺構の年代は、近くの溝から出土した「**仁和2年假分**」（**886**年、**けぶん**）の墨書を持つ題簽（だいせん）、木簡やその他の資料から、**平安時代初期以降**のものと考えられている。

出土品

国庁を象徴する遺物の代表的なものは、石帯（せきたい）、硯、題簽、**木簡**、墨書土器、緑釉陶器などが挙げられる。



南門跡

国司

因幡国庁は、**大伴家持**が**国守**として着任したことでも知られる^[1]。

文化財

国の史跡

- 因幡国庁跡 - 1978年（昭和53年）7月21日指定^[2]。

脚注

- ↑ 『万葉集』の最後の歌「新しき年の始の初春の今日ふる雪のいや重（し）け吉事（よごと）」（12 - 4516）の歌は、**天平宝字3年**（**759**年）正月に、この地で詠まれたといわれる。
- ↑ 因幡国庁跡 (<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/401/2135>) - 国指定文化財等データベース（文化庁）

参考文献

- 加藤隆昭「因幡国庁跡」『図説 日本の史跡 第4巻 古代1』文化庁文化財保護部史跡研究会監修、同朋舎出版、1991年。ISBN 978-4-8104-0927-7。

関連項目

- **国衙**

外部リンク

- [因幡国庁跡 \(https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/401/2135\)](https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/401/2135) - [国指定文化財等データベース \(文化庁\)](#)

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=因幡国庁跡&oldid=72583470>」から取得

最終更新 2019年5月1日 (水) 06:03（[日時は個人設定で未設定ならばUTC](#)）。

テキストは[クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス](#)の下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。